

令和元年度 三田市人権を考える会
ラブピース4コマまんがコンテスト
特選作品

『ちがいを認めあう』

中学校の部
八景中学校1年
西井 颯希 さん



「差別」という言葉からあなたは
何を考えますか。私は、落語家の桂
文喬さんの人権講演会を聞いて、改
めて「差別」は決して、許してはいけ
ないことだと感じました。



▲ 井澤 瑛さん

高校生が考える「男女差別」

三田祥雲館高等学校 2年
井澤 瑛

先月号に引き続き、「人権と共
生社会を考える市民のつどい」に
おいて発表された、高校生による
人権作文を紹介します。

子どもたちの思いを届けます
人権作文から、人権について考える

そうです。しかし、今の日本社会は
どうでしょうか。昔に比べて女性の
社会進出や女性にしかできない仕事
などが増えたことで、「男女差別」
は減ったと思います。まだまだ
「女性だから」と言う理由で前に進
めない人も多いはず。これは本
当に正しいやり方なのではないか。
この考えを少しづつ変えていかな
い限り、男性と女性が平等に扱わ
れる社会は日本には訪れません。
そこで、私は、文喬さんの講演か
ら学んだことをどのように生かせば
「差別」を減らすことが出来るのか
を考えました。

を認めるためには、相手に対す
る思いやりと優しさが大切だと
思います。大きな心で世界にい
るいろんな人を認める力は、誰
もが持っている力ではありません
ん。しかし、一人一人が理解しよ
う、受け入れようという気持ち
を持つだけで大きな一歩につな
がります。



また、文喬さんは『人生とは
デコボコ道を平らにならして進
むことだ』とおっしゃっていま
した。長い人生で多くの人と関
わり、多くの人から学ぶことが
あります。その学んだこと、相



▲ 会場の様子

手から吸収したことをデコボコに
入れて平らになるように進んで
いきます。道は、まっすぐな道
だけでなく、曲がった道、上り坂
下り坂、時には大きな壁によつ
て閉ざされることがあるかもしれ
ません。二つ目の車輪である、
人を認められる人が世界にたく
さんいれば、大きな壁が扉に変
わり、前に進むことが出来る
と思います。

「差別」は、人の心を傷つけ
ます。そして、差別をした人は
いつか自分がしたこと後悔す
るはず。その心の傷と後悔
を生まないようにする必要があります。
今、自分に何が出来る
のか。「差別」を見つけたとき
にどう動けるのか。「差別」を
する側にも、される側にもなら
ないための行動と心掛けが大
きく社会の在り方に影響すると考
えます。

正しい情報に基づいた冷静な行動を!

新型コロナウイルス感染症に関連して、特定の国や
地域から帰国された人や我が国に居住する外国籍の人、
患者やその治療に当たっている病院関係者、その家族に
対して、誤った情報に基づく不当な差別や偏見、いじめ
など人権を侵害することは許されることではありません。
不確かな情報に惑わされず、正しい情報に基づいた
冷静な行動を取りましょう。

不当な差別やいじめなどの相談

みんなの人権110番 (全国共通人権相談ダイヤル)

0570-003-110

絶対に見逃さない! 絶対に許さない!

先日、駅のトイレに特定の国の人を誹謗中傷する落書きが発見されまし
た。このような落書きは、人の心を深く傷つける、顔の見えない悪質で卑劣な
行為です。また、建物や看板などに落書きをすることは器物損壊罪や建造物
損壊罪などに該当し、民事上では、損害賠償請求の対象になる場合もあります。
私たちは、このような悪質・卑劣な行為を見逃さない、許さないという姿勢で
「人権尊重のまちづくり」を進めていかなければなりません。
差別落書きと思われる落書きを発見した場合は、その場で消去せず、現場
を保存し、紙で覆うなどの処理をした後、速やかに施設管理者または人権
推進課へ連絡してください。(5面下記欄外参照)